
恋を教えて

y?i

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

私は『藤白桃花』世間で言う、お嬢様！！

でも、恋愛経験0

22歳になっても、手すら繋いだことない…

なのに…今日、政略結婚の相手に会わなきゃいけない…

私は『恋』を知ってから好きな人と結婚したかったけど、今まで大事に育ててくれた、お父さんの為に…『神藤』財閥のぼっちゃ

んと…

年下らしいし…

『桃花く着替えたか？』

げっ、こういう服、苦手だな…

でも、

「うん。着替えたよ！お父さん！！」

『よし。行くか！』

「うん。」

私はお嬢様…

スカートが嫌いで、恋愛経験0の…

そんな私が恋する王子様はいるんだろうか…

私達が待ち合わせ場所に着くと、もう相手の方々が着ていた。

『すいません！神藤さん』

「いえいえ！。藤白さん」

『桃花、挨拶しなさい。』

「うっうん。藤白桃花です。よろしくお願いします。」

私が緊張しながら言うと、男の人が立ち上がって…

「僕は『神藤勇気』です。よろしく。」

男の人は爽やかで、スゴクカッコいい…

年下とは思えないくらいしっかりしてる。

『まあまあ、桃花ちゃん！あんまり緊張しなくて良いのよ。』

相手のお母さんがそう言うてくれた。

若い感じのお母さんでスゴく優しい。

この人達とだったら、きっと上手くやっていけると思ってた。

あの人に出会うまでは...

それから、いろいろ話してると…

『ところで、桃花ちゃんは明日から花嫁修行のために家で暮らすのよねっ。』

「
「
えっ
! !
」
」

思わず私と神藤勇氣さんの声が重なる…

「どっぴんぽん事っ…お父ちゃん！」

「どっぴんぽん事っ…母ちゃん」

『あゝごめん、ごめん！』

お父さんが言う。

『どうせ半年ぐらい後に結婚するんだ。一緒に暮らして慣れなさい。』

『そうそう。勇気もね!』

「うん……うん……!」

こうして私達は一緒に暮らす事になったのだ…。

「じゃあね。お父さん！行ってきます〜！」

「おお！気を付けて。神藤さんに迷惑かけるんじゃないぞ！」

分かってるって！！

ピンポン

『はい。』

「ふっ藤白です。」

『あつ桃花ちゃん？』

「お母さんですか？」

『ええ、入って！』

ピンポンマイクでお母さんと話終ると、スゴく大きい門が開いて、執事さんがでてきた。

「ようこそいらっしゃいました。藤白様。今から奥様の所に案内します。」神藤家はスゴく広くて綺麗だった！！

「こちらでございます。それでは失礼します。」

「あっありがとうございます。」

『ありがとう。セバスチャン！』

セバスチャンって言うんだ!!

『桃花ちゃんようこそ!! いらっしやい。』

『えーと、勇気は……。全くも……。あの子ああ見えて、恥ずかしがり屋なのよ!。だから今もここにいないけど気にしないでね。じゃあ桃花ちゃんの部屋を案内するわね!! 行きましようか。』

『いじめる。』

「ありがとうございました。」

へー、ドアまでやっぱり綺麗

『この真ん中のが桃花ちゃん部屋のドア。右が勇気の。左が勇気のお兄さんのね!』

お兄さん？…いるんだ…

『じゃあ、勇気は部屋にいたと思うから…！！お兄さんもね！！ご飯の時に呼びに来るからそれまで自由にしててね。』

「あっはい！ありがとうございます。」

私はとりあえず部屋に入ってみた。

「…広！」

そこは、驚くべき広さだった。

「わー！ベットも大きい！！！」

ボフッ

ベットにダイブー！

「ふー。掃除もしなくて良さそうだし……お兄さんと勇氣さんにとりあえず挨拶しに行こうかな。」

「まずは、勇気を出して…いや、お兄さんから…」

ミントミント

???.???

トントント

？反応がない！

居ないの？

ガチャッ

「えっ！」

ドアが開いていた…

入る？…いやでも…さすがに…でもっ…

あゝもういいや入る！

「しつねーしまーす…」

なぜか、誰も居ない…

???.?

「あつ
…」

部屋の奥の方から何か声が聞こえてきた…

音の方へ向かって行くとだんだん分かりやすくなる声……

「あ……ん……んっあ〜ん……あ……」

！？えっ？……

ベットで重なり合う二人！？

私は固まってしまっ。

その時、男の方と目があつた…。

「……」

「……」

男の動きもとまる。

「はあ……お前も帰れ」

男が女の方にそう言った。

「えゝもう…また、遊んでねゝ速人くん！」

女の方は男の人にそう言うと、私に

「あなたのせいよ！」

と言っ
て去っ
ていっ
てしま
った。

「君…どうしてくれる?」

「えっ…?」

「良いところだったのに…」

は？この人ナニッテンノ??????...

「責任とって、楽しませてくれよ…！」

「は?.....」

なんで...なんで...

なんで近づいてくるの?

「ちょ……っ……っわっ……」

床に押しつけられて、顔があと少しでピッタリひっついてしまいそう
な距離……

「どうやって、家に入ってきたのかな？……子猫ちゃん……」

「あっあの……私、勇氣さんの……」

「なに？…勇気の女？」

「いや、女といますか…許嫁？…でしょうか……」

「許嫁……？ああ、政略結婚の……君だっただ……お嬢様……」

「なんだ、つまんねー…」

そう言うと、その人は私の上から退いてくれた。

「
…」

「俺、お嬢様は嫌いなんで…」

別に好んでもらわなくても良いけど…

なにこの人…早くこの部屋から出ないと…

「そっ…それでは、失礼します…」

ガシッ

いきなり手を掴まれた。

「はふえ？」

変な声が出る…

「好きでもない相手と結婚すんの…？」

「え？
…」

「お前…恋した事あんの？
…」

恋

この時、私の中で何かが動いたんだ…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3539m/>

恋を教えて

2010年10月10日20時38分発行